

患者図書室「にじいろライブラリー」の紹介

石澤 沙紀、天野 いづみ
日本赤十字社医療センター医学図書室

I. はじめに

当院では平成 17 年 5 月より、医学図書室の一角に「やさしい医学書コーナー」を設置し、医学情報の提供を行ってきた。そして設置から 5 年目の平成 22 年 1 月、新病院への移転を機に独立させ、新たに患者図書室「にじいろライブラリー」（以下、当室）を開室した。

II. 蔵書状況（平成 23 年 5 月現在）

医学書： 293 冊

一般書：11,078 冊（単行書・文庫本：10,689 冊 漫画：389 冊）

III. 利用状況（平成 22 年度）

1. 貸出冊数：15,070 冊（1 ヶ月あたり平均 1,256 冊）

2. 利用者数：16,551 名（入院患者：6,650 名 外来患者：9,316 名 職員：585 名）

3. レファレンス：247 件（1 ヶ月あたり平均 21 件）

当室は、売店や花屋に隣接した正面玄関のすぐ傍にあり、気軽に入りやすい環境にある。診察の待ち時間の合間に本を借り、帰宅時に返却をする利用者も多い。レファレンスについては、図書室内にある医学書やインターネット情報の提供、薬や治療内容などの専門的な質問に関しては専門の相談部署への案内を行っている。

IV. ボランティアと活動内容

図書室内で、図書の貸出・返却、職員のサポートを交代で行う図書室ボランティアと毎週火曜日に病棟内を巡回し、図書の貸出を行っている移動図書ボランティアが活動をしている。また、各病棟に返却ボックスを設置し、回収作業も行っている。

V. 今後の課題と患者図書室の役割

今後の課題は、本来の目的である「医学情報の提供の場」という環境作りである。当室は医学に関するレファレンスや医学書の利用が少ない。小説や漫画が溢れ、常に人の出入りがある狭い室内は病気の話をするのに適した環境とは言えない。また、ボランティアが不足しているため、担当者が時には一人で全ての業務を行わなければならない、レファレンスに時間をとる事も難しい。利用者自身で多くの情報が得られるよう医学書を増やしていくことや、専門の相談部署への案内を分かりやすく提示する必要があると感じた。

また、誰かと話がしたいという理由から利用する場合も多いように感じる。常に利用者があることに気を配り、来室の際に一言声を掛けるなど、病気で来院する不安を軽減することも、患者図書室の役割ではないかと思う。